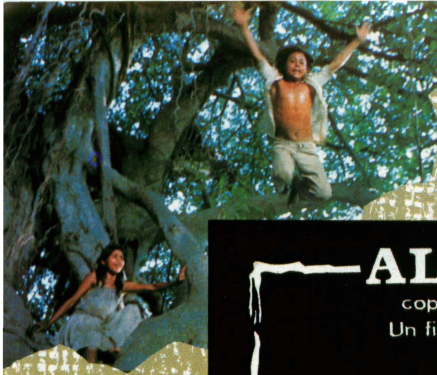

「ぼくはひとりで空を翔びたい！」

ニカラグアの青春は勝った！
ラテンアメリカ映画人の総力を結集した
第三世界映像の豊かな魅力と感動の秀作！

アルシノとコンドル

1983年
モスクワ国際映画祭
金賞受賞

ミゲール・リッティン監督作品
ALSINO Y EL CONDOR
ニカラグア映画(カラー作品)
配給=国際シネマ・ライブラリー

■世界の焦点・ニカラグア初の長編劇映画

最近、アジア、アフリカ、ラテンアメリカなどの「第三世界」と呼ばれる国々の、映画界における躍進は目覚ましい。今アメリカの干渉と直面し、世界の焦点になっているニカラグアは、一九七九年七月にソモサ独裁体制が打倒されて自由をかちえた人口三百万の、小さいが若々しさ溢れる共和国である。解放後、直ちにニカラグア映画協会(INCINE)が設立され、新しい映画づくりがはじまる。この「アルシノとコンドル」はその第一作目の長編劇映画で、一九八二年アメリカ・アカデミー外国語映画賞にノミネートされ、一九八三年には第十三回モスクワ国際映画祭で見事最高の金賞に輝いた。

■ラテンアメリカ映画人の総力を結集

監督のミゲール・リッティンは、一九七三年九月の軍事クーデター以後、メキシコに亡命したチリの映画人。一九七〇年、チリに「人民連合」政権が成立すると新しいチリ映画の指導者となり、「約束の土地」(一九七二)でフランスのジョルジュ・サドゥール賞、亡命後メキシコで製作した「マルーシアの記録」(一九七四)はアメリカ・アカデミー外国語映画賞ノミネート、最優秀メキシコ映画賞などを獲得、この「アルシノとコンドル」で世界的監督の地位をさらに確固たるものとした。撮影のホルヘ・エレラはキューバ映画を代表するカメラマンである。またアメリカの俳優デイーン・ストックウェルの参加を得るなどニカラグアを支援する映画人の総力を結集した作品である。

■幻想のイメージと抒情のロマン

映画は解放前のニカラグアを舞台に、九歳の少年アルシノの夢と現実を追い、彼の大人への目覚め、自立への歩みと、ニカラグア民衆の自由へのたたかいを重ね合わせて描く。

アルシノ少年は祖母と二人暮し。鳥のようにひとりで空をとび、世界をめぐる夢を抱いている。十三歳の少女ルシアとのほほえましい友情の日々。彼女の母ロザリオの愛するマヌエルは山に入り、ゲリラとなって独裁政府軍と戦っている。ある嵐の夜、アルシノはついに高い木の上から飛び降り、大怪我をする。……きびしい解放戦の現実を織り込みながら、幻想的なイメージとやさしく美しい抒情のロマンが、ユニークな映像世界を作り上げている。

■ノーベル賞作家ガルシア・マルケスも称賛

コロンビアのノーベル賞作家ガブリエル・ガルシア・マルケスは、自らもニカラグア解放戦に取材したシナリオ「人質」(一九八四)を発表するなど、ニカラグア支援に情熱を傾けているが、この「アルシノとコンドル」を見て、次のように讃辞を送っている。

「信じられないような困難な状況の中で、これほどの素晴らしい作品を作り上げたことは、まさに驚嘆に価する。」

(カラー/ビスタサイズ/1時間23分)

●スタッフ

監督	ミゲール・リッティン
脚本	ミゲール・リッティン イシドラ・アギッレ マス・トゥレント
撮影	ホルヘ・エレラ パブロ・マルティネス
美術	エリ・メンス
音楽	レオ・ブロウェル
録音	ヘルミナル・エルナンデス
編集	ミリアム・タラヴェラ

●キャスト

アルシノ	アラン・エスキヴェル
フランク大尉	ディーン・ストックウェル
ルイザ・ママブエラ	カルメン・ブンステル
ルシア	マルタ・ロレナ・ベレス
ロザリオ	デリア・カサノヴァ
ガリン少佐	アレハンドロ・パロディ
マヌエル	ロヘリオ・ブライン

12/9(火)~12/19(金)

〒140 東京都品川区南大井6-27-25(西友大森店5F)

キネカ大森

TEL 03-(762)-6000